

かわさき区の宝物シート

宝物No.	いなげじんじゃ ちょうずいし
1-15	稲毛神社 手洗石



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		

所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ (稲毛神社)
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分



基礎情報

■田中休愚は江戸時代中期、財政難にあえぐ川崎宿を再興し、二ヶ領用水や多摩川の治水工事を完遂するなど、今日の川崎の発展の礎を築いた最大の功労者のひとり。一介の町人から武士に取り立てられ、三万石支配の代官職にまで出世を果たした。稲毛神社境内に置かれる手洗石は、享保14年(1729)に休愚が没した際、その業績を讃え、冥福を祈念して、一族と手代衆によって奉納されたと伝えられている。手洗石は現在、市の重要歴史記念物に指定されている。

由来・エピソード

■45歳で川崎宿本陣職・田中家を相続した休愚は、六郷川の渡船権を獲得し、財政難の川崎宿の再建を果たした。その後河川土木の勉強を始め、8代将軍吉宗に認められると、「川除御普請御用」(河川管理の責任者)に登用され、小泉次大夫が完成させた後すぐに110年余りが経過していた二ヶ領用水の大改修工事、荒川や多摩川下流の大丸用水など、多くの治水事業で成功をおさめた。幕府はこれを高く評価し、享保14年(1728)休愚を多摩・埼玉2郡3万石支配勘定格代官に抜擢した。引き続きおこなった多摩川最下流、旭町から大師河原までの堤防改修を最後の事業として、同年12月、休愚は江戸で没した。享年68歳であった。

■手洗石の銘文には、寄進者として休愚の実子と手代衆であった「田中仙五郎、田中団助、森田重郎衛門、富永軍治、門田半四郎」の5名の名が記されている。彼らは休愚が十人扶持を与えられた際に登用された優れた土木治水技師であり、休愚を補佐する重要なブレーンや現場監督として治水工事の実務を担った者たちである。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-6)田中本陣跡
- (1-14)稲毛神社
- (32-2)田中休愚